

各位

全 9 ページ  
登録速報(2020-049)  
2019年12月18日  
クミアイ化学工業株式会社  
企画普及部普及課

## 登 録 速 報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。  
適用拡大登録年月日：2019年12月18日

### 記

#### 1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第16824号

名 称：クミアイダコニール1000

#### 2. 変更の内容

農薬登録申請書第7項に以下の事項を変更し、別紙1【変更後】のとおりとする。

##### 【変更事項】

- ・作物名「きゅうり」、適用病害虫名「べと病」に希釈倍数「33倍」、使用液量「10L/10a」、使用方法「常温煙霧」を追加する。
- ・作物名「きゅうり」のTPNを含む農薬の総使用回数を「10回以内(土壌灌注は2回以内、散布及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計8回以内)」から「10回以内(土壌灌注は2回以内、散布及び常温煙霧及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計8回以内)」に変更する。
- ・作物名「なす」、適用病害虫名「うどんこ病」に希釈倍数「33倍」、使用液量「10L/10a」、使用方法「常温煙霧」を追加する。
- ・作物名「トマト、ミニトマト」に適用病害虫名「褐色輪紋病」を追加する。
- ・作物名「てんさい」の使用時期「収穫45日前まで」を「収穫30日前まで」にする。

#### 3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容 農薬登録申請書第8項に以下の事項を追加し、別紙2【変更後】のとおりとする。

12) 常温煙霧として使用する場合は、次の事項に注意すること。

- ①専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
- ②煙霧が直接作物体に当たると汚れが生じるおそれがあるので、施設上部に噴頭部を設置するなど、

煙霧が作物体に直接当たらないようにすること。

③作業は出来るだけ夕方に行い、終了後は6時間以上密閉すること。

農薬登録申請書第9項を以下のとおり変更し、別紙3【変更後】のとおりとする。

#### 変更前

1) 誤飲のないように注意すること。

3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。

付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

4) 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。

作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。

6) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物との接触をさけること。

#### 変更後

1) 誤飲などのないよう注意すること。

3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。

付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

4) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。

作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。

6) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。

#### 追加

9) 常温煙霧中はハウス内へ入らないこと。また常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。

## 【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数
りんご	斑点落葉病、 モニリア病、黒星病	1000倍	200~700L /10a	収穫45日前まで	3回以内	散布	3回以内
なし	黒斑病、黒星病			3回以内(休眠期は1回以内)			
もも	灰星病、黒星病			6回以内	6回以内		
ネクタリン				2回以内	2回以内		
いちじく	疫病、黒葉枯病、黒かび病、 さび病	2000倍		収穫60日前まで	7回以内		7回以内
キウイフルーツ	果実軟腐病	500~1000倍		収穫30日前まで	4回以内		4回以内
	すす斑病	500倍		収穫45日前まで	3回以内		3回以内
マルメロ	ごま色斑点病	1000倍		収穫14日前まで	5回以内		5回以内
かりん	黒点病、ごま色斑点病、 白かび斑点病			3回以内	3回以内		
パッションフルーツ	円斑病、疫病			5回以内	5回以内		
パパイヤ	炭疽病		5回以内	5回以内			
ばれいしょ	疫病	500~1000倍	収穫7日前まで	6回以内	6回以内		
	夏疫病	1000倍	収穫30日前まで	6回以内	6回以内		
やまのいも	炭疽病、葉渋病、つる枯病		6回以内	6回以内			
やまのいも(むかご)	ステムフィリウム葉枯症		3回以内	3回以内			
もりあざみ			3回以内	3回以内			
らっかせい	褐斑病	500倍	収穫14日前まで	4回以内	4回以内		
きゅうり	べと病、炭疽病、 うどんこ病、灰色かび病、 黒星病、褐斑病	1000倍	収穫前日まで	8回以内	10回以内(土壌灌注は2回以内、散布及び常温煙霧及びくん煙及びイザール剤の噴射は合計8回以内)		
にがうり	炭疽病、うどんこ病、 べと病、斑点病、つる枯病	700倍	4回以内	4回以内			
ズッキーニ	うどんこ病		3回以内	3回以内			
ごぼう			5回以内	5回以内			
すいか	炭疽病	700倍	100~300L /10a	収穫3日前まで	5回以内	5回以内	
	つる枯病	700~1000倍					
	うどんこ病	700倍					
	べと病	700~1000倍					
メロン	つる枯病	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内		
かぼちゃ	べと病、白斑病、 うどんこ病		3回以内	3回以内			
<u>トマト</u>	疫病、輪紋病、葉かび病、 炭疽病、灰色かび病、 すすかび病、うどんこ病、 <b>褐色輪紋病</b>	1000倍	収穫前日まで	4回以内	6回以内(土壌灌注は2回以内、散布及びくん煙及びイザール剤の噴射は合計4回以内)		
<u>ミニトマト</u>	疫病、輪紋病、葉かび病、 炭疽病、灰色かび病、 すすかび病、うどんこ病、 斑点病、 <b>褐色輪紋病</b>			2回以内	2回以内		
なす	黒枯病、灰色かび病、 すすかび病、うどんこ病			4回以内	4回以内		
オクラ	葉すす病			5回以内	5回以内		

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数
キャベツ	べと病、根朽病	1000 倍	100~300L /10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (は種又は定植前の土壌混和は 1 回以内、散布及びエゾノ剤の噴射は合計 2 回以内)
はくさい	白斑病、べと病、黒斑病、白さび病			収穫 7 日前まで			3 回以内 (は種又は定植前の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)
ひろしまな	白斑病			収穫 28 日前まで			2 回以内
だいこん	白さび病、ワッカ症、白斑病、炭疽病			収穫 45 日前まで	3 回以内		3 回以内
なばな類 (なばなを除く)	白さび病、べと病、白斑病、黒斑病			収穫 60 日前まで			
なばな				出蕾前 但し、収穫 21 日前まで			
たまねぎ	べと病、灰色かび病、白色疫病			収穫 7 日前まで	6 回以内		6 回以内
ねぎ	黒斑病、べと病、小菌核腐敗病、葉枯病、さび病			収穫 14 日前まで	3 回以内		4 回以内 (土壌灌注は 1 回以内、散布は 3 回以内)
わけぎ					2 回以内		3 回以内 (土壌灌注は 1 回以内、散布は 2 回以内)
らっきょう	灰色かび病				3 回以内		3 回以内
にんじん	黒葉枯病		収穫 7 日前まで	5 回以内	5 回以内 (種子への吹き付け処理は 1 回以内)		
セルリー	斑点病、萎縮炭疽病		収穫 21 日前まで	2 回以内	2 回以内		
レタス	灰色かび病		収穫 14 日前まで	3 回以内	5 回以内 (土壌灌注は 2 回以内、散布は 3 回以内)		
リーフレタス	すそ枯病、べと病						
みつば	べと病		収穫 21 日前まで	2 回以内	2 回以内		
アスパラガス	茎枯病、斑点病、褐斑病、疫病		根株養成期 但し、収穫 75 日前まで	3 回以内	3 回以内		
しょうが	紋枯病、白星病		100~400L /10a	収穫前日まで	4 回以内	4 回以内	
みょうが(花穂)	葉枯病、紋枯病		100~300L /10a	収穫 14 日前まで	5 回以内	5 回以内	
みょうが(茎葉)				みょうが(花穂)の収穫 14 日前まで 但し花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで			4 回以内
にんにく	葉枯病、黄斑病、白斑葉枯病、さび病			収穫 7 日前まで	6 回以内	6 回以内	
ゆうがお	炭疽病、うどんこ病、べと病	収穫前日まで	5 回以内	5 回以内			
うり類(漬物用、ただし、ゆうがおを除く)	炭疽病、うどんこ病、べと病、つる枯病		4 回以内	4 回以内			
<u>てんさい</u>	褐斑病	収穫 30 日前まで	3 回以内	3 回以内			

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数		
うど	黒斑病	1000倍	100~300L /10a	根株養成期 但し、 収穫200日前まで	3回以内	散布	4回以内(散布は3回以内、根株瞬間浸漬は1回以内)		
ふき	灰色かび病			収穫21日前まで	2回以内		2回以内		
あしたば	黒枯病			収穫30日前まで	3回以内		3回以内		
食用ぎく	褐斑病			収穫30日前まで	4回以内		4回以内		
食用ゆり	葉枯病			収穫14日前まで	6回以内		6回以内		
ピーマン	斑点病、うどんこ病、 黒枯病、炭疽病		150L/10a	収穫前日まで	3回以内	3回以内			
しそ	斑点病(株枯症)				4回以内	株元 散布	4回以内		
茶	炭疽病、もち病、輪斑病、 新梢枯死症(輪斑病菌による)	700~1000倍	200~400L /10a	摘採10日前まで	1回		1回		
	網もち病、褐色円星病	1000倍							
	黒葉腐病、灰色かび病	700倍							
みしまさいこ	炭疽病	800倍	100~300L /10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内		
しゃくやく(薬用)	うどんこ病	1000倍		収穫45日前まで	15回以内 (1年間に3回以内)		15回以内(1年間に3回以内)		
ブロッコリー	べと病			出蕾前 但し、収穫21日前 まで	2回以内		3回以内(土壌 灌注は1回以 内、散布は2回 以内)		
カリフラワー				出蕾前但し、収穫 14日前まで	3回以内		3回以内		
たばこ	うどんこ病	700~1000倍	25~150L /10a	-	2回以内	散布	2回以内		
花き類・観葉植物 (ばら、きく、チュー リップ、ゆり、りんど うを除く)	うどんこ病、斑点病	1000倍	100~300L /10a		6回以内				6回以内
ばら	黒星病、うどんこ病、斑点 病								
きく	黒斑病、褐斑病、白さび病、 うどんこ病、斑点病								
チューリップ	褐色斑点病								
ゆり	葉枯病、斑点病								
りんどう	葉枯病、褐斑病								
しきみ	炭疽病								
つつじ類	褐斑病								
西洋芝(ベントグラス) 西洋芝(パーミュタグラス)	ヘルミトス <sup>®</sup> リウム葉枯病 葉腐病(グラウンパ <sup>®</sup> ツチ)								

土壌灌注として使う場合

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	TPNを含む農業の総使用回数
稲(箱育苗)	苗立枯病 (リゾーナス菌)	500~1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 500mL	は種時から緑化期 但し、は種14日後 まで	2回以内	土壌 灌注	2回以内
		1000~2000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 1L				
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000倍	3L/m <sup>2</sup>	は種時又は活着後 但し、定植14日後 まで	2回以内		10回以内(土 壌灌注は2回 以内、散布及び くん煙及びア ゾール剤の噴射は 合計8回以内)
トマト							6回以内(土 壌灌注は2回以 内、散布及びく ん煙及びアゾ ール剤の噴射は合 計4回以内)
みずな							立枯病
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500倍	0.5L/m <sup>2</sup>	出芽揃い後 (出芽3日後から 10日後まで)	1回		4回以内(土 壌灌注は1回以 内、散布は3 回以内)
			セル成型育苗 トレイ1箱また はペーパーポ ット1冊(30 ×60cm、使 用土壌約 5L)当り 0.5L				
わけぎ			0.5L/m <sup>2</sup>				3回以内(土 壌灌注は1回以 内、散布は2 回以内)
レタス	ビッグベイン病	1000倍	1.5~3L/m <sup>2</sup>	収穫42日前まで	2回以内	5回以内(土 壌灌注は2回以 内、散布は3回 以内)	
ブロッコリー	根こぶ病		3L/m <sup>2</sup>	定植時	1回	3回以内(土 壌灌注は1回以 内、散布は2 回以内)	

種子消毒として使う場合

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数
にんじん	黒葉枯病	12倍	乾燥種子 1kg当り 60mL	は種前	1回	吹き付け処理 (種子消毒機使用)	5回以内 (種子への吹き付け処理は1回以内)

常温煙霧として使う場合

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数
<u>きゅうり</u>	温室、ガラス室、ビニールハウス等密閉できる場所	<u>べと病</u>	33倍	10L/10a	収穫前日まで	8回以内	常温煙霧	<u>10回以内(土壌灌注は2回以内、散布及び常温煙霧及びびくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計8回以内)</u>
<u>なす</u>		<u>うどんこ病</u>				4回以内		4回以内

## 【変更後】

## 8. 使用上の注意事項

- 1) 使用直前に、容器をよく振ること。
- 2) 石灰硫黄合剤との混用はさけること。
- 3) ストレプトマイシン剤及びホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を加えること。
- 4) 稲(箱育苗)に使用する場合、次の事項に注意すること。
  - ① 緑化期に使用する場合、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意すること。
  - ② 育苗箱から希釈液が漏出しないように注意すること。
- 5) りんごに使用する場合、次の事項に注意すること。
  - ① ゴールデンの後代品種(つがる、世界一、ジョナゴールド等)には、葉に薬害を生じるので使用しないこと。
  - ② 本剤の散布により、サビ果が多くなるおそれがあるので落花後 20 日間は散布しないこと。
- 6) なしに使用する場合、二十世紀以外の品種には葉に薬害を生じるので使用しないこと。また、二十世紀であっても 7 月以前に使用すると葉に薬害を生じるので 7 月以降に使用すること。
- 7) 有袋栽培のものの場合、除袋直後の散布は果面に日焼け症状が出るおそれがあるのでさけること。
- 8) いちじくに使用する場合、果実に薬害が発生するおそれがあるので、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布はさけること。
- 9) ねぎ及びわけぎに土壌灌注として使う場合、は種時から出芽直後の処理においては生育抑制のおそれがあるため注意すること。
- 10) レタスに使用する場合、生育遅延のおそれがあるので高温期の灌注はさけること。
- 11) しそに使用する場合、薬液による汚れが生じるおそれがあるので、葉にかからないように株元に散布すること。
- 12) 常温煙霧として使用する場合は、次の事項に注意すること。
  - ① 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病虫害防除所等関係機関の指導を受けること。
  - ② 煙霧が直接作物体に当たると汚れが生じるおそれがあるので、施設上部に噴頭部を設置するなど、煙霧が作物体に直接当たらないようにすること。
  - ③ 作業は出来るだけ夕方に行い、終了後は 6 時間以上密閉すること。
- 13) 花き類に使用する場合、花卉に薬液が付着すると漂白・退色などによる斑点を生じる場合があるので着色期以降の散布はさけること。
- 14) 花き類に使用する場合、薬液による汚れが生じるおそれがあるので、収穫間際の散布はさけること。
- 15) 芝に使用する場合、夏期高温時の散布、特に暖地では葉に薬害(黄変または褐変)を生じることがあるので注意すること。
- 16) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 17) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用の場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 18) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



9. 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- 1) 誤飲などのないよう注意すること。
- 2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるのでで皮膚に付着しないよう注意すること。  
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- 4) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- 6) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- 7) 夏期高温時の使用をさけること。
- 8) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- 9) 常温煙霧中はハウス内へ入らないこと。また常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。

以上